

インターネットによる人権侵害の特集記事が広報12月号に出たばかりですが、先日、私の周りでもインターネットによるトラブルが起こってしまいました。

私の知人になりますが、本人の知らないうちに、個人の情報をインターネット上に掲載されてしまい、掲載された知人はショックで傷ついてしまいました。書き込んだ人自身は、ちょっとした遊びのつもりで掲載したようで、相手がそれほど傷つくとは思っていなかったようです。書き込まれて傷ついた知人と、軽い気持ちで書き込んだ人と、受け止め方の違う二人を見ていると胸が痛む思いです。今や、パソコンのみならずスマートフォン の普及により、当たり前のようにインターネットにアクセスできます。手軽に情報がやり取りできる時代になりましたが、書き込んだ情報は世界中に拡散していき、時には人を傷つけること

## 「インターネットに思いやりを」

もあるということについても考えてみましょう。

インターネットは、顔が見えないので現実世界ではどうなのか思いをめぐらす必要もあるのではないのでしょうか。立場は人それぞれに違います。お互いの認識の違いや、そのずれによって、誰かが傷つく可能性がないのか、顔が見えないからこそ一度立ち止まって考えることや、思いやりが大事だと思います。

＊このシリーズは、あなたとあなたの周りにいる人の間にあたたかなつながりが生まれることを願い、人権について考えるきっかけになることを目的としています。

※お問い合わせは

人権啓発広報委員会

(☎880・6569) まで